

常設展示

絵画

小山敬三（小諸市出身）	「ばら」油彩10号 「紅浅間」リトグラフ10号
桜田晴義（青木村出身）	「いつか見た空」油彩10号 「少女」デッサン43×33cm
瀬川康男（青木村で制作活動）	「よもつひら坂」テンペラ25号 「女の乙女」テンペラ30号 「不動明王」水墨・衝立150×150cm 「観世音」日本画150×40cm 「花神」テンペラ20号 「つばき」テンペラ20号 「ふくろう」テンペラ10号 「バッタ」油彩8号
林倭衛（しずえ）（上田市出身）	「上総海辺」油彩10号 「ばら」油彩4号
丸山晚霞（東御市出身）	「須川入口より上田常田を望む」水彩8号 「千曲川の梁（やな）」水彩8号
山本鼎（青木で農民美術開講）	「山村風景」水彩36×48cm

彫刻

中村直人（上田市出身）	「父子」像 高さ170cm 「石工」 高さ106cm
中村実（刀）中村直人（下絵）	「能舞」盆 径75cm
小森邦夫（S60年 日展理事）	「青春譜」ブロンズ175cm（S59年 日本芸術院賞受賞）
塩澤貞雄（長野県で教師を勤める）	「少年」ブロンズ117cm
土屋瑞穂（上田市出身）	「大地に立つ」等身大・石台

陶芸

宮下高	「諏訪形茶盃」 径 1 1 cm 「一輪挿し」 高さ 1 5 cm 「瓶子」 高さ 3 0 cm
本松陶秋	「青木角皿」 36×21 cm 「青木花びん」 高さ 2 2 cm ・ 2 3 cm
染屋焼	甕（高さ 3 8 cm）
松代焼	甕（高さ 57.5 cm ・ 55.5 cm） 水差し（高さ 1 5 cm） こね鉢（径 2 5 cm） 徳利（3 5 cm）
東馬焼	壺（高さ 4 9 cm） 甕（40.5 cm ・ 3 3 cm ・ 3 1 cm）

書

五島慶太	掛軸（141×29.5 cm）
柳原白蓮	短歌・軸装（38×42 cm）

大法寺寄託品の展示物

茶釜 古瀬戸（徳利）

国宝三重塔内壁画再現模写図（来迎柱）（隅柱 柱）（長押 幣軸）

国宝三重塔外部（九輪 水煙 瓦 檜皮 釘）



壁画について

国宝大法寺三重の塔第一層の天井に創建当時（六百八十年前）の絵が残っていますが、文化庁の調査で壁面にも描かれていたことがわかり、文化庁の依頼を受けて平山郁夫氏に師事し、古建築壁画等復元の第一人者、馬場良治氏の手によって復元模写されました。馬場氏が二週間塔内に入って図取りをし、その後ほぼ二年間かけて彩色が施され、平成16年に実寸大の復元図が完成しました。

農民美術 木端人形（こっばにんぎょう）



山本鼎との関わり

大正8年、農村不況で苦しむも農民の生活向上と芸術を庶民のものにしたいという目的のため「農民美術運動」を提唱した画家の山本鼎が大正15年、倉田白羊や彫刻家村山桂次と青木村の若者たちを指導しました。

生産された木端人形は観光地や温泉地で販売され好評でした。生産されたものは、農村の風俗人形でしたが、中にはスキー、スケート、野球、登山など大正時代に若者の間で流行したスポーツの人形なども製作されました。

ここに展示してある、木端人形はこのころの作品です。

俳句

栗林一石路 1894年～1961年（長野県青木村出身）



当館の前にある石碑

「シャツ 雑草に ぶっかけておく」

(昭和元年)

プロレタリア俳句運動の旗手 戦後も活動を貫く

1929年第一句集『シャツと雑草』を刊行。プロレタリア俳句運動への傾斜をはじめ、第二次世界大戦では新興俳句弾圧事件で大変な思いをしましたが、プロレタリア俳句運動の中心的存在として活躍しました。農民を愛し、庶民を愛し、郷土を愛した俳人で、遺族より遺品と一石路関係資料などを一部保管・展示しています。青木村歴史文化資料館で多数展示があります。